

知事広聴：平太さんと語ろう

発言要旨

日時：平成 22 年 2 月 10 日（水）13:00～15:30

会場：浜松市春野地域自治センター 2 階会議室

- 1 出席者（男性6名、女性3名 計9名）
北遠地域において様々な分野で活躍中の方

2 発言意見

No	項目	県関係部局
1	阿蔵山、日光山の有効活用	総務部 自治行政室
2	地域の技術を守る人材の育成支援、 県道 295 号の拡幅	産業部 農業振興室
3	小さな茶園による栽培、茶普及の取組	産業部 お茶室
4	春野町での地域活動	総務部 自治行政室
5	佐久間での地域活動	総務部 自治行政室
6	佐久間の観光協会の役割	観光局 観光振興室
7	教育の支援、 道路の整備、 公共施設での県産材の利用による需要 の喚起	教育委員会 学校教育課 産業部 林業振興室
8	事業所税の課税についての要望	総務部 自治財政室
9	林業の振興支援、 地域の特色ある高校の継続	産業部 林業振興室 教育委員会 学校教育課
①	三遠南信自動車道の整備協力	
②	天竜川ダム再編事業についての意見	建設部 河川企画室
③	これからの高校のあり方、 木材産業の振興	教育委員会 学校教育課 産業部 林業振興室

3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 阿蔵山、日光山の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカンドリームとは庭付きの家を手に入れることだと知事が話されたが、天竜ではそのための最適地が2ヶ所ある。 ・ 1ヶ所は阿蔵山で、平成19年度には開発が終了する予定だったが、今は進んでいない。広さは34ヘクタールで、第二東名のインターが近く、天竜浜名湖鉄道もすぐ近くを通っており、地理的には最高である。 ・ もう1ヶ所は天竜区青谷と両島にまたがった日光山で、120町歩ある。 ・ ここは、市の名義になっていると聞いているので、この2ヶ所を市とともに有効活用して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカンドリームが一番の大きなものは、誰もが家を持てるというものであった。それを日本でやろうとした場合、東京では土地が狭いため、非常に高いマンションを建てなくてはならない。個性がなく、90~100平米とすると億ションとなり購入できなくなる。さらに地震が心配される地域では、傾いて住めなくなる恐れもある。 ・ そこで本県のような地域では、例えば阿蔵山のようなところで、300坪使い、60坪の家と240坪の庭の住宅というプランを提供してはどうかと考えている。家は買うのではなく、定期借地と定期借家で住むことができる。 ・ 川根本町では、若者定住促進住宅を造ったところ、17棟があつという間に埋まった。 ・ 地産地消で天竜産の木材を専ら扱うストックヤードや加工場を地元で造る。
<p>2 地域の技術を守る人材の育成支援、県道295号の拡幅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和61年に寂しくなった熊地区を何とかしたいと村おこしを始め23年になる。 ・ 熊地区は戸数が270足らず、人口700人に満たず、高齢化率46%、限界集落が地域の中で幾つかある。 ・ 地域を守ろうとする人たちを育てるために必要なことを、県農林事務所の生活普及員からすべて学んだ。 ・ 北遠、天竜それぞれの地域の人々は地域を頑張って守りたいと思っている。 ・ そういうところに技術の伝承や人材育成をしてくれる機能を残していただきたい。 ・ 浜松市と県の担当部署の人が両輪となり、北遠がイギリスのように豊かな人たちは田舎へ行く、そのような暮らしができる北遠づくりを望んでいる。 ・ 熊地区へは、大型バスが通れる道は県道9号線しかないなので、県道295号線も拡幅して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の日本はイギリスのような国になることを目指していた。イギリス人は都会で成功し、田舎で悠々自適の生活をするを理想としていた。 ・ 今の日本の理想は都会に出て成功することで止まっているが、北遠を成功して帰ってくる地域、日本の理想の地域としていきたい。 ・ 昭和20年自動車は11万台しかなかったが、現在は8000万台となった。それに比べ道路の建設は遅れている。大型バスが通らないということは本当に真剣に考えなくてはいけない。 ・ 道は日本人にとって、長いこと歩く道であり、安全なところであったが、今は危険なところである。この問題は非常に深刻で、そういうところにこそ税金を使うべきだと思う。道路のことは本当に重要であり、限られた予算ではあるが、常にそこを考えていきたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・交通が便利な地域となれば、自分たちの地域は自分たちで守るといふ思いの人が増えると思う。 	
<p>3 小さな茶園による栽培、茶普及の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡の中山間の茶栽培は小規模、傾斜地、点在茶園で形成されており、省力化、機械化が遅れており、きつい作業状況、気の抜けない難しさ、低い生産性といった問題を抱えている。 ・これらの課題に挑戦するため、春野の若手茶農家で、常に中山間茶業の未来に向かって挑戦することを目的とした「はるのフューチャプロジェクト」を立ち上げた。 ・我々が考えるコンセプトは、小さなお茶の木を小さな機械でというものである。 ・県の応援体制は企業型、鹿児島型の大規模、効率生産中心となっている。しかし鹿児島の実例では、近い将来静岡茶は負けてしまう。 ・茶園を小さくするメリットは、機械化による省力化により、規模拡大や担い手が増加し、地域の景観保持や発展が見込まれること。栽培面でも、早期の製品化や肥料効率アップにつながり、効率的な生産にもつながること。さらに簡易な基盤整備や農道整備などにより低コスト化が図られ、経営の健全化にもつながることである。 ・生活スタイルの変化等でお茶離れ、急須離れが言われているが、会議への急須持参、小中学生へのお茶教室実施、全国お茶いっぱいの日への参加といった地道な活動を行っている。 ・県独自の教育として、お茶を使ったおもてなし教育を取り入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大量で同じようなものをつくるんじゃなくて少品種、少量で多品種のものをつくっていくという非常に大事なことを言われた。 ・お茶の文化、茶の湯は日本で発達した独自のものである。数寄屋造り、懐石料理、お茶碗などは、今から約400年前に発達した。これは一つの生活の総合芸術である。 ・そういうものの一端に触れると、それはマナーとして学ばれていき、いい子に育つと思う。 ・例えば、スミレの花をあしらった急須で飲めば、その美しさに話の花が咲く、きれいなスミレの里の心が人の心に入ってくる。これが文化であり、これを学校給食など教育に取り入れたい。 ・しかし、人口が減少している。そこで、300坪を10万円で借りられると売り込めば、人が住むようになり子どもが増える。学校でいい子が育ち、産業にも良い影響を与える。とにかく、人を住まわせることが重要であり、その方法が3人の話を聞いて見えてきたように感じる。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>4 春野町での地域活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春野町では白井先生の功績をたたえ、後世に伝承したいという思いから、昭和62年スミレの里づくりが始まり、スミレ草花愛好会を発足して、スミレの栽培、スミレ展の開催、宝塚歌劇団、宝塚市との交流事業などに取り組んでいる。 ・ 昨年秋には、宇宙飛行士の若田さんと8カ月半宇宙飛行したスミレの種をもらった。4月からは小学生の皆さんと一緒にスミレを育てる計画で、宇宙実験に加わったつもりで楽しみながら取り組みたいと思っている。この宇宙スミレが全国に広がり、かつての私たちの念願だったスミレの里ができ、この町から宇宙飛行士が誕生する。そんな大きな夢を持って頑張っている。 ・ 高齢化率の高い地区に住んでおり、思いやりの心を持ってみんなで支え合う、そういうことの大切さを学んだ。 ・ 自分たちの行き先の不安を抱えながら、なるべくこの地で子供や周りの人の世話にならないように、今を一生懸命生きている。 ・ 限界集落では、地域のいろんな行事や伝統文化の伝承、お医者さん不足、宅地や農地の維持管理の大変さなど、たくさん課題がある。 ・ 春野町は豊かな自然に恵まれ、気田川と森林資源がいっぱいある。この資源を生かすことができれば地域が活気づいて、若い人たちも定住し、生活が明るく豊かになると思う。北遠の過疎化を食い止めて、少しでも賑わいを取り戻すために森林政策をお願いします。 	<p>(4、5共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2人の女性の話を聞き、これからは本当に男女共同参画でいかないといけない、特に女性の方々の力を十分に活用して、地域おこしをしていかなければならないと改めて感じた。 ・ 60代は若い衆と呼ばれているそうであるが、若い衆の意味は、若い人の役に立てるといえることがあると思う。それまで女性は子育て、だんなさんの世話などいろいろ大変である。中には仕事をしている方もおり、仕事と家庭が両立できるようにすることが今の会社の務めとなっている。 ・ 中でも一番手がかかるのは子育てであろう。子育てを経験した人は、本当に頼りになる人である。インフルエンザが流行したたのとき、各地で保育所がいっぱいになったら、どこに預けるのが一番いいかという問題が出た際、母親は自分の母親に子供を預けるのが、本当に安心だということだった。 ・ 昔話でもおばあちゃんが、子どもを育てている。一度、子供を産んで育てた経験を持っている人の力は、これから子供を育てる人たちにとって、ものすごい力になる。地域の子供は地域で育てるといえるとき、60代の若い衆の力を上手に活用できる地域、そういうコミュニティがあるところで子供を育てるのが一番いいということになる。都会では、どこの保育所が空いているか、どのくらい待たなければならないか心配するが、こちらではその必要はない。 ・ おじいさん、おばあさんと、孫との相性は非常に良い。特におばあさんは、たくさんの愛情を注いで育てることになる。そして、子どもは優しい子に育つであろうし、地域の子どものためになるが、そのためにはコミュニティを支えなくてはいけない。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>5 佐久間での地域活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜松市との合併により、佐久間から若い人たちが仕事などで、南部へ行くようになった。そして、南部に家を建てどんどん町から出て行ってしまった。 ・ 佐久間地区は少子化が進み小学校は複式学級である。 ・ 私の所属するNPO法人がんばらまいかは、地域の人たちの何か手助けをしたい、休耕田を何とか活用したい、成人式を立派に挙げて、また佐久間に戻ってきてもらいたい。そんな気持ちで頑張っている。 ・ 休耕田を借りてそばを作り、1月にそば祭りを開催したところ、7,000人近くが食べに来てくれた。 ・ やり方によっては北遠に人を呼び戻せる、そんな力強い反応を感じた。 ・ 私たちは65歳以上の女性を中心とした活動で、佐久間では60代の人たちは、どこの会でも若い衆と呼んでいる。 ・ 高齢者が何とか地域活動を続けていけば、今の若い人たちが職を離れたとき、地域のつながり、地域の活動に参加してくれる、応援してくれると思いい今は我慢の時代、60代、70代が頑張る時代と考え一生懸命頑張っている。 ・ 仲間と働けている間がいいが、働けなくなったらどうなるのかと、不安でいっぱいである。 ・ その際は、洗濯機のようにかき回した均一な行政ではなく、五本指の靴下の先まで届くようなそんな行政を県知事をお願いしたい。 	

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>6 佐久間の観光協会の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天竜区内の観光協会は、先行きに非常に不安を感じている。観光協会でも補助金の削減、使い道の縛りがあり、事業のみならず、事務所そのものが今後やっていけるかという心配を天竜区内の観光協会の人は皆、感じている。 ・ 天竜区内における観光協会の立場、位置づけと、もともと観光産業の発達しているところの観光協会の位置づけとは、違うと思う。 ・ 天竜区内の観光協会は、人口の減少、高齢化といった中で、会員たちが一生懸命頑張っている。田舎のコミュニティを成り立たせていく、結びつきを保っていくという点でも、観光協会のいろんな事業は、大きな役割を果たしている。 ・ それができなくなると、一緒になって何かをつくり上げていく、そして外から来ていただく方をおもてなしするという一つの共同作業というものが非常に薄れてしまう。 ・ 北遠の中には自然、歴史、文化、といった昔からの生活を基盤とした発信すべきものがたくさんある。そういったものを活用し、観光資源としていくような事業をやっている。私たちがどのようなことをやっているか、県の立場でもっと外部に情報を発信して欲しい。 ・ かつて、観光協会の仲間内に情報を流すメーリングリストを立ち上げたが、内部でなくお客様を対象に各観光協会の地元情報、行事などの情報を発信できないかと考えている。県の観光行政として、その辺りを深く掘り下げて考えて欲しい。 ・ 佐久間町の中にいろいろな観光名所となるべきところがあるが、道が狭過ぎて、お客様を呼ぶには躊躇してしまう。 ・ 大型バスが入れるよう、予算の限りはあると思うが徐々に整備して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティの絆を保つ一番大切な役割があるのが、観光協会だということであるが、その観光協会が今存亡の境目にいるというのは、大変重要なことであり、これは何とかしなくてはいけないと思った。 ・ 最近の日本人が海外旅行に行く場合、のんびり暮らせる田舎が、心が癒せる場所として人気となっている。そこは観光案内があり、地元の料理が食べられるところである。最高のもてなしは、その生活の景色を見るだけで「いいなあ」と思わせる力である。 ・ 都会では60平米～80平米の家となり、4人ぐらいしか住めず、子どもは結婚すると一緒に住めなくなる。このようなところでは、コミュニティが崩れている。 ・ 静岡にはお金には換えられない自然という財産と、全国一多い219品種の農産物と水産物がある。 ・ 綺麗な景色と、美味しいものがあれば、あとは交通網をしっかりとさせることが大事である。 ・ 例えば、韓国ではお茶がおしゃれになっている。茶畑を周遊先に含んだ観光商品を考えることもできる。 ・ いろいろなものを組み合わせ、観光客を呼ぶ商品を作れば良い。観光協会がやるべき仕事はいくらでもあると思う。 ・ 観光協会がコミュニティの核になっていて、それが今事務所も営業できないほど厳しい状態になっていることがわかったので、行動する。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>7 教育の支援、道路の整備、公共施設での県産材の利用による需要の喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水窪町には私立の幼稚園が1園ある。現在の園児は36名ぐらいで、1学年園児は10名以下が続いており、出生児がだんだん減少する傾向にある。幼稚園については、県から子育て支援金や補助金をもらっているが、水窪に幼稚園がなくなると、大変困ることになる。 ・ この傾向が、小学校、中学校、それから高校というふうに進んでいく。地元には県立佐久間高校があり、中高一貫教育を行っている。佐久間、水窪は少子化が進んでいるので、この高校がなくなるのも、また大変困る。幼稚園から高校までの教育について、ぜひ県の支援をして欲しい。 ・ 静岡県は東西の道路は整備されているが、南北は整備が遅れている。水窪は高齢化率が高いので、急病人が出た場合救急車がスムーズに通れるよう生活道路でもある道を整備して欲しい。 ・ 林業について、公共施設には全部県産材を使うこととし、少しでも木材需要を喚起し、波及効果が生まれるようにして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水窪は長野のすぐ近くで、浜松市の中心から一番遠いところに位置しているが、今が辛抱のしどころである。 ・ あと15年以内に飯田に、リニア新幹線の駅ができる。 ・ 飯田に一番近いところは水窪で、浜松駅に近いところに市街地が発展したように、飯田に近い水窪でも市街地が発展するのではと思う。 ・ また、引佐から飯田までつなぐ三遠南信自動車道があるが、厳しい中でも着実に予算を組みながら、整備しつつあり、これも我慢のしどころである。 ・ 東西の道路に比べ、縦の道路が不十分であり、西部地域の三遠南信自動車道、中部地域の中部横断、伊豆半島の伊豆縦貫自動車道が構想されている。私はその促進期成同盟の会長をやっており、活官僚の方針で進めているが、一朝一夕にできるものものではないので、暫く待っていただきたい。 ・ インフラ整備は、命を支える人間社会における基礎であると考えている。
<p>8 事業所税の課税についての要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合併により、磐田郡から浜松市となり事業所税が発生した。5年据え置きとなっているが、平成23年4月1日から施行という形になっている。 ・ 内容は、簡単に言うと1,000平米以上の建屋面積を持った企業については、1平米600円の税金がかかるという内容である。私のところでも100万円弱となる。 ・ 浜松のど真ん中でも600円、長野県との県境でも600円というのは、いかなものかと思う。どこの工場でも、常に価格意識、輸送、人材確保と風土(習慣)との戦いをして価格を出している。非常に厳しい経済状況の中、北遠で皆頑張っている。 ・ 税金としては税法上認めざるを得ないと思うが、法人税の減税、減免などを検討してもらいたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所税は市民税であり、法律上はすぐには対処できないが、過疎地域で土地が安くて、広い土地で大きく事業を行おうというところに、そこから税金を取るのでは意味がない。市長とは仲がいいので、よく考え、負担がかからないよう努力してみる。今までかかっていないものが急にかかってくるということのないようにしたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>9 林業の振興支援、地域の特色ある高校の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員をやっており、日頃安否確認を兼ねて高齢者のお宅を訪問して伝わってくるのは、この地で1日でも長く生活をしたい。またこの地で一生を終わりたいという願いである。 ・ 誘致した会社等は撤退し、商店も店じまいし、買い物に行くにも困るといのが現状である。昔から山村はそこに住んでいる人たちが地域の産業を育てながら、ともに助け合って、温かみのある地域社会をつくってきたが、今は年齢のバランスも崩れて、もう限界にきたなと感じている。 ・ 私は日頃から、この地に若い人が定着して働く職場をつくることができると考えている。 ・ 森林という大きな資源があり、これから生産される木材には全国でも上位の高品質で、強度の抜群にすばらしい強い杉、桧がたくさんある。これを何とか地域の産業としてもう1回、みんな育てていくことが大事じゃないかと思う。 ・ 現状を見ると、日本の森林は環境の山としか評価されていない。国の指導のもとで私は一生懸命苗木を植え、愛情を込めて山を育てたが、50年たった間伐木は、大半が山に捨てられている。手入れ不足で荒廃した森林は年々増加している。森林資源の利用拡大は山間地域の定住の促進と雇用の拡大につながり、高齢者福祉の対策にも十分つながると思う。 ・ 日本の木材の消費量の8割が、毎年外国から輸入されている。戦後、国を挙げて行った植林活動により森林資源の蓄積は、日本の木材の消費に十分役立つような量になっている。発展途上国で進む森林の喪失や、地球温暖化から起こる災害の防止のためにも、国に対し適正な木材の輸入量に修正するための県民運動をやって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業を活用するために、ここの土地を利用し、立派なおしゃれな町、天竜ドリームをつくって見せたいと思っている。 ・ 天竜は、「天」、「竜」と名前が良く、天竜川が世界文化遺産になったら良いのではと考えている。 ・ それは世界文化遺産にすることが目的というより、我々が天竜川の恵みについて考え、知り、知られるに値することを理解し、それを人々に伝えることにある。 ・ 物づくりと同じぐらい物使いも大事であり、使う需要、消費が増えれば、供給や生産がついてくる。だから、需要を創出したい。 ・ 日本の材木の自給率は2割で、8割を外材に頼っている。そして外国の森を潰していると非難されている。 ・ 日本は昭和30年代から外材を輸入してきて、外材を使うシステムになっている。これは変えないといけない。 ・ それは、自分たちで、天竜でできる。誰かにやらせるのではなく、皆で協力しないといけない。必要なことはたくさんある。所有者がばらばらになっているのを1つにまとめる。安心して使ってもらえるようにする。儲けられるようにする。乾燥からカット、半製品になるまで行う工場を造る。 ・ 今までも県でも県産材の利用に補助をしていたが、もっと本格的にやっていく。 ・ 県産材は毎年産出可能なもののうち3割しか利用されておらず、担い手もいないことから、7割は手入れがされず放っておかれている。 ・ 中国は世界一の外材輸入国となったが、ロシアでは木材の輸出に輸出税を設け、フィンランドもそうすると考えられる。今が林業拡大のチャンスである。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業が産業としての位置づけを確保するには、幅広い木材の利用拡大が望まれる。住宅用利用はもちろん、化石燃料にかわる利用等のほか、新しい利用方法について、県の研究機関でも取り組んで欲しい。 ・ 森林から木材を持ち出すには大きなコストがかかっている。作業道路の整備や機械化を一層進めるため、県に支援して欲しい。 ・ 二俣には天竜林業高校と二俣高校があるが、近々統合すると聞いている。ただ統合するのではなく、天竜にふさわしい特色を生かした林業の実践的な技術が学習できる機能を残した高等学校とすることを要望する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それには、初期投資が必要となる。地域にあった作業道や加工場を造り、まず、この地域で使うようにする。 ・ 大きな公共施設は、建築基準法を踏まえ鉄筋木造コンクリートで建てる。使えるところでは全部使うこととする。それが、日本に対するメッセージとなる。今は我々の財産である材木が宝の持ち腐れになっている。 ・ 一学一山、一つの学校が一つの山に力を入れるとか、一社一山、会社は山を持てばその分、二酸化炭素の排出量を減らせるので有効であるという考え方などを広めていきたい。 ・ インフラ整備は林業においても大事であり、運び出し、乾燥、等級分け、加工する施設、そして、それを学ぶための学校が必要となる。 ・ 今やポスト東京の時代であり、ここ静岡県にふじのくにをつくる。変わり目の中で地域自立をする。静岡県には380万人がおり、GDPは17兆円である。農産物と海産物が日本一の大地の恵みを持っている食材の宝庫であり、食の都にできる。人材もそろい、人口が増える可能性がある。そんなふじさん政策をやりたい。 ・ 地域の60代の若い衆の方々と子供を育てるため一緒にやる。別に保育園でなくてもできるというふじの国の方式でやる。東京方式でなく、独自の方式でやる。 ・ 志は富士山のごとく高く。日本一の志を持つ。思いは深く、駿河湾よりも深く持つ。 ・ 天竜ドリームを、これがジャパニーズドリームかと、そんな気持ちでやっついこうと思う。そうすると、自然とたくさん人が来るのではないか思い描きながら、今は我慢のしどころと思っている。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>傍聴者① 三遠南信自動車道の整備協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田にリニア新幹線が停まると、佐久間、水窪の人は浜松から新幹線に乗るより、飯田から行った方が、東京に着くのが早くなる。しかし、それは三遠南信自動車道ができてのことである。 ・ 佐久間から水窪区間は国が直轄ではなくて、浜松市が整備することとなる。浜松市と協力して北遠を生かすようにして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニア新幹線が開通すれば、客に利用してもらうため、当初はわからないがいずれ長野県のどこかに駅が設置されるであろう。 ・ そして、南信州から浜松に出たいとなると、道路が整備されていないと不利益である。三遠南信というのは、この10年前後、近々の課題になってきている。 ・ 三遠南信には250万人が住んでおり、立派な大都市である。10年後には、県境は関係ないかもしれない。東三河と一つの町になるかもしれない。 ・ 交通網は、人の生活圏を変え、行政圏も中長期的には変えていく可能性が非常に高い。三遠南信自動車道、ダムの問題と、駅の問題というのをセットにし、人々の生活にとって一番いいのが何かという観点から考えていくと、おのずと解決ができていく。 ・ 自分のためではなく、人のため、世のためにすることが、人間にとって最高の仕事だと思う。そういう観点で考えていけば、方法はおのずと見えてくる。
<p>傍聴者② 天竜川ダム再編事業についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天竜川ダム再編事業の中にある佐久間ダムからの排砂バイパストンネルについて、昨年12月21日の朝日新聞の記事に基づき伺いたい。 ・ 佐久間ダムに流入する土砂は、もともと非常に細かい土砂であり、その下流域には秋葉ダムがある。そのため、非常に細かいシルク状の砂だけが天竜川の下流域から遠州灘まで流れていくことになる。したがって、このシルク状の砂が天竜川の河床にこびりついて、河床環境が悪化する。さらに遠州灘まで到達したとしても、その砂は太平洋の波間に漂うだけで、遠州灘海岸の侵食を止めたり、造浜に寄与することは100%ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金は有効に使わないといけない。 ・ とにかくダムの浚渫をしないとイケない、その浚渫の方法について、今提案があった。 ・ 青崩トンネルをどうしても造る必要があることはわかっている。 ・ どのように費用を充てると、環境もよくなり、かつ人も便利になるかと考える。そういう問題点がクリアされない限り、お金は使わない。 ・ ほかに方法があるか。そしてその方法と比較し、いい方をとる。そして、必ずなぜその方法を採用する理由を知らせる。または、意見を聞いて、納得された時点で実行する。方法はいろいろあるので、一番いいものを選ぶのは

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ そういった事業に国土交通省は、約800億を投じようとしており、そのうちの3割は県の負担ということである。ほとんど効果がなく、かえって害を与える事業に800億を投じ、そのうちの240億を県が負担するというのは、どうしても納得できない。 トンネルが完成するのは10年後で、実際に使うのは年に1回か、多くて数回、それ以外は今までどおり土砂は佐久間ダムに流入し続けることになる。費用対効果の面で考えても、これはおかしい事業だと思う。 ・ それよりも、今までどおり浚渫し、湖外搬送をすることとし、そのための道路として三遠南信自動車道の佐久間道路を早期完成させてはどうか。 ・ リニア新幹線の話があったが、青崩トンネルを早急に完成させない限り、リニア新幹線はほとんど意味をなさない。三遠南信全体の区域を考えたときに、天竜区がその真ん中にあるという知事の考えは、非常に力強く感じた。それを生かすためにも三遠南信自動車道の佐久間道路と青崩トンネルを早急に完成させて欲しい。その原資として佐久間ダムの排砂トンネルをやめて、その800億を投じてはどうか。 	<p>難しいであろうが、特に地元の人にとって一番いい方法をとることを原則とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今指摘されたことについて、もう少し精査して勉強する。そして無駄にお金を使ったという印象、事実がないような形にしていくことを約束する。
<p>傍聴者③ これからの高校のあり方、木材産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春野高校の問題であるが、中山間地、あるいは過疎地では、これから少子高齢化になっていく中で、高校問題はどこでも発生すると思う。 ・ 我々は3年かけ中山間地のモデル構想を練り、高校のあり方を県教委に要望した。ところが県教委は一向に聞いてくれない。我々の言うことを聞かないで、彼ら独自のあり方、ほぼコンクリート固めのような感じに進めている。 ・ 県教委の考えを壊し、我々の柔軟な発想。佐久間高校も含めた考えではあるが、これからの静岡県で発生すると思われる高校のあり方のモデルとして取り入れてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春野高校のモットーの一つは立志立行、志である。これがある限り必ずそれが形になると思う。あれだけのたたくまいであり、あの場の力は無視できない。 ・ 生徒が減っていく中で、建物の維持管理だけやるというのは無理である。建物に応じた使い方がきっとある、知恵を出す必要があると思う。何を語りかけているのかよく考えるのである。 ・ 今、高校生は家から通っているが、半年だけでも、先生と生徒が学校の中に一緒に住む。高野山、比叡山など昔の日本の学問は全部そうであったが、そこでは、学問、教育、生活とが一体になっており、先生も背中を見られる。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日が要望できる最後の機会だと思っている。 ・ 森林業、木材産業の発展に必要なのは、供給だと思う。ジャストタイムで消費者の目線に立って供給していくことが重要だと思う。 ・ この地域は木材しか生きる道がない。 ・ 経済基盤が確立されなければ人は住めない。知事が言っている理想実現には、年月がかかるであろうが、ぜひ実現して欲しい。 	<p>背中を見せていると、先生は先生らしくなくなってくる。先生は鍛えられるし、また、子供たちは親元に土日や休み中は帰れるとなれば、親のありがたさもわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そうなると、食堂も要るし、地域の人々の協力も要る。それから寄宿舎であるので、何人部屋にするのか、合宿場も、その考え方を教育に生かしたらいいのではないかと考えられる。 ・ 周智高校も含め、いろんなところが新しい行き場を求めているが、私は役割が終えても違う使い道があると思う。 ・ 人間が手を加え、心を加えて、志をそこに宿したものは違う形で生かすことができる。 ・ 高校の役割が変わってきて、新しい役割は何かということと一緒に考えましょう。何も教育委員会の言うことだけがすべてではない。 ・ 皆で知恵を絞って、自分たちが何を残していくかという観点から考えていくと、絶対できると思う。信じてやるしかない。